



いずみさの昔と今 第341回

「泉佐野の弥生時代墳墓」

3月から開催中の春季企画展「歴史発掘 大阪 2023」と関連し、今回は弥生時代の墳墓について紹介します。

本企画展では柏原市大東郡条里遺跡で発見された、弥生時代の墳墓である方形周溝墓の調査について展示しています。弥生時代、近畿地方では四方に溝を巡らし、盛土により墳丘を盛り上げた方形の墳墓が登場します。

「方形周溝墓」と呼ばれる墳墓です。この墳墓は弥生時代を通じて築造されますが、弥生時代中期（前1世紀）には大形化する傾向がみられ、一辺20mに及ぶものもあります。埋葬施設は墳丘上に木棺を使用して複数基つくられる例が多くみられますが、周溝内にも壺や甕などの土器を利用したものもあります。また、周溝内からは土器が数多く出土します。おそらく、埋葬時に墳丘や墳墓の周辺で行われた儀礼に使用されたものが転落して残されたものと推定されます。

では、泉佐野市域の状況をみていきます。市域の弥生時代の遺跡は上之郷地区の柵原遺跡、長滝地区の三軒屋遺跡、諸目遺跡、中樫井地区の樫井西遺跡、中庄地区の湊遺跡などがよく知られています。この内、方形周溝墓は三軒屋遺跡、諸目遺跡、

樫井西遺跡などで発見されていますが、今回は、残存状況の良い方形周溝墓に注目します。

樫井西遺跡は現在の南中樫井の一角、樫井川の東岸に位置しています。遺跡の発見は比較的新しく、1984年、国道26号線沿いのガソリンスタンド建設工事に伴う試掘調査で方形周溝墓2基と室町期の住居跡が発見されたことにより周知されました。さらに、1995年、道路建設工事に伴う調査で新たに6基が発見され、現在まで確認された墳墓は合計8基になります。調査地周辺の状況を勘案すればさらにその数は増えることは確実視され、泉佐野における弥生時代を代表する墳墓群と言える存在です。

特に、1995年の調査で見られた6基の墳墓は、周溝を共有しながら連なった状況で見られています。規模は一番大きなもので一辺約14m、小さなもので約8mです。詳細な時代は弥生時代中期の終わりごろ、今回展示している大東郡条里遺跡とほぼ同時期です。大東の例に比べると墳墓規模はやや小ぶりですが、墳墓群としての形成や変遷を考える上で良好な資料と言えます。残念ながら埋葬施設は残存していませんでしたが、

周溝内からは、高杯や壺、甕などの土器が完形品に近い状態で出土しています。出土状況を詳しくみると、溝の底近くで横倒しになって潰れた状態のものも多くみられます。おそらく墳丘上に置かれていたものが自然に転落したものでしょう。

このように樫井西遺跡では墳墓の状況は判明していますが、この墳墓を築いた住人の集落はまだ発見されていません。おそらく、墳墓に近接した場所に存在することは間違いありません。さらに、墳墓の数やその連続性などから市域の中心的な「ムラ」のひとつであったと推定されます。今後の調査の進展によって、泉佐野における弥生時代の実態について解明されることが期待されています。



▲樫井西遺跡の方形周溝墓

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの ☎469-7140 Fax469-7141 休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館） 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） 入館料 無料

日本遺産・葛城修験文化を巡る⑨ ～犬鳴山 七宝瀧寺～

「日本遺産」に追加認定された「葛城修験 - 里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介し、

問合先 文化財保護課



七宝瀧寺

犬鳴山 七宝瀧寺は、修験道はじまりの地であり、日根荘の水源でもあり、また江戸時代の船の目印にもなった燈明ヶ嶽があることから、本市にある3つの日本遺産すべての構成文化財に認定されています。七宝瀧寺の寺号は、平安時代はじめの淳和天皇の時代に大干ばつに見舞われ、諸国の靈山・神社に祈雨祈願をさせたところ泉州一円で雨が降ったことから、天皇は犬鳴山中にある七つの滝を金銀等の七宝にたとえたことに由来し、そうして歴史的に有名にもなりました。また、同じく平安時代、宇多天皇の時代の寛平2(890)年に、鹿を追って現在の裏行場「蛇腹」付近に来た紀伊の猟師が連れていた犬が、猟師を狙った大蛇に気づき知らせました。ところが、邪魔をしたと思った猟師は犬の首を切ってしまう。それでも犬は大蛇の頭にかみつき猟師の命を助け、大蛇とともに絶命してしまいました。その後、後悔した猟師が寺で僧となったことから「犬鳴山」という山号になったといわれ、山中には愛犬の菩提を弔った「義犬の墓」もあります。その他にも「志津の涙水」の伝説や、寺周辺では真瀬の力持ちじいさんの伝承も残っています。